

中国ブロッククラブネットワークアクション 2018 開催報告

日 時： [1日目] 平成30年11月24日(土) 13:00 ~ 17:30

[2日目] 平成30年11月25日(日) 9:00 ~ 12:00

会 場：ニューウエルシティ出雲

内 容：テーマ『心をつかみ人をつなぎ地域をつくる』

[1日目]

1. 共通プログラム「障がい者へのスポーツ活動アプローチ」
2. 講演・ワーク「苦境のまちからの挑戦～次世代が活躍できる環境づくりとは～」
3. 事例発表「スポーツを軸としたまちづくり～北広島町～」
4. 日本スポーツ協会からの情報提供

[2日目]

1. 講演「魅力ある教育を通じた活力ある地域づくり」
2. 事例発表「わが県の小ネタ集?!」

参加者：85名

【概要】

総合型地域スポーツクラブ設立から数十年を経て、今一度原点に立ち返り、「心」「人」「地域」をキーワードに、地域におけるクラブの在り方について再考する機会とした。

一日目の共通プログラムでは、障がい者スポーツをテーマにスポーツ団体および総合型クラブの実技・事例をもとにパネルディスカッションを行った。その後、独自プログラムとして、現在の組織・活動の振り返りをテーマに講演とワーク、そして、行政のスポーツ振興とクラブ・地域の関わりについて事例発表を行った。

二日目は、学校再生の事例をもとに、地域の未来をつくる人づくりのポイントについて講演とペアワークを行い、最終プログラムとして、各県の実行委員から、注目したい活動をリレー形式で紹介した。

【内容】 [1日目]

共通プログラム／パネルディスカッション「障がい者へのスポーツ活動アプローチ」

パネリスト：日本レクリエーション協会公認インストラクター 栢野和美氏「簡単・楽しい実技」

パネリスト：島根県スポーツ吹矢協会事務局長 梶谷清美氏「養護学校との交流事業における用具の工夫」

パネリスト：島根県テニス協会事務局長 芦山洋子氏「障がい者との交流事業について」

パネリスト：NPO法人斐川体育協会ひかわスポーツ夢クラブクラブマネージャー 若槻かおり氏「個性を伸ばす運動教室」

コーディネーター：よろずや北広島GM 関口昌和氏



障がい者を対象とした事業の実践に基づくノウハウを、発表者ごとに実技・用具・目的・教室運営のテーマに分けて発表を行った。どんな運動・スポーツでも、対象者がやりやすいように工夫することは同じであり、そこに障がいの有無による違いはなく、障がい者の個性を尊重する指導者の姿勢や目的が重要であるということが、発表者の共通意見であった。

講演・ワーク「苦境のまちからの挑戦～次世代が活躍できる環境づくりとは～」

講師：NPO法人てごねっと石見理事 盆子原照晶氏

講演では、江津市から委託を受け実施した、ビジネスプランコンテスト等の創業支援、人材育成、地域活性化の取り組みについて発表を行った。若者がトライ&エラーを意識できる環境づくりの大切さについて語った。

ワークでは、てごねっと石見が開催している地元企業活性化のための企業魅力化セミナーをもとに作成した職場環境や意識に関するチェックシートを記入し、その場で集計及び結果の共有を行った。管理職と現場スタッフ間のギャップを認識し、自分の組織内での立場や考え方を振り返る機会となった。



事例発表「スポーツを軸としたまちづくり～北広島町～」

発表者：北広島町役場企画課政策立案室 主任 齋藤栄一氏

北広島町では、スポーツ振興はまちづくりであり、地域の主体的な取り組みと行政の側面的支援の両輪が必要と考えている。地域における取り組みとしては、どんぐりクラブ屋台村の自主財源によるウエスタンリーグの開催やどんぐり北広島ソフトテニスチームによって地域が活性化した事例について発表を行った。行政としては、これら地域の活動に並行し、スポーツ振興計画の一部改正を行い、ソフトテニスを町のシンボルスポーツにする「ソフトテニスの聖地構想」によって、スポーツによる地域活性化をさらに後押しし、日本一元気な町の実現を目指している。行政が期待する地域活性化ニーズに、総合型クラブの取り組みが合致することで生み出された協働事例であった。



[2日目]

講演「魅力ある教育を通じた活力ある地域づくり」

講師：島根県教育庁島根県教育魅力化特命官 岩本悠氏

前半は、少子化に伴う廃校寸前の高校を、魅力化プロジェクトによって再生した過程について説明を行った。学校が無くなるという危機感、当事者意識の醸成のため、学校の現状を地域課題として捉え、協議会を設立し、現状と向かいたい未来のギャップを埋めるためにはどんな人が必要か議論を深め、学校・地域の機能・役割を見出していた。また、ペアワークでは、スポーツを通してどんな人を育てたいかについて発表し合い、時間内では語り切れないほどの盛り上がりであった。



後半は、地域の未来をつくる人づくりについての課題及びポイントについて説明を行った。まず、狭い環境における関係の固定化、価値観の共通化という課題に対し、全国から“よその、わかもの、ばかもの”を受け入れ、閉鎖的な環境の打破を図った。さらに、魅力化から人づくりに繋がるポイントは、1. 新しいつながりから機能の活性化を図る。2. 価値観が異なる団体が、共通のビジョンを持って本音で話せる関係性を持ったチームを作る。3. 学習者主体の学びに変える。4. チャレンジを称賛できる土壌をつくる。そこで問われるのは自分自身であり、人づくりは自分づくりと結論付けた。最後のペアワークでは、全体を通しての感想を述べ、振り返りを行った。



事例発表「わが県の小ネタ集?!」

発表者：中国ブロックネットワークアクション実行委員

始めに、岡山県はクラブ×企業、クラブ×大学の取り組みについて発表を行った。次に鳥取県は若者によって再生したクラブ、民間から総合型に移行したクラブ等の取り組みについて発表を行った。広島県は西日本豪雨災害時のクラブの取り組みの詳細について発表を行った。山口県は7つの地域連絡協議会の取り組みについて発表を行った。最後に、島根県は連絡協議会女性部設立について発表を行った。各県ごとの特徴がわかる事例発表となった。



今年は西日本豪雨災害があり、対応に追われる県、クラブの状況から、開催について不安な面もあった。しかし、5県の委員間で連携を図り、さらに、県内クラブの連携協力による企画、運営もでき、予定通り開催することができた。新しい連携づくり、および推進へのきっかけになったと思う。

今回のプログラムでは、経営理念や活動内容および規模等、多様化するクラブに有益な実践知を提供することを目指し、例年の「事業運営」に特化した内容から、クラブを支え、地域を支えていける「人づくり」へとテーマ設定の視点を変えた。しかし、参加者数は昨年度とほぼ同じであり、参加クラブ増へ繋げることはできなかった。内容については、今後、具体的なアクションに繋がったかどうか効果測定したいと考えているが、それ以前の課題として、ネットワークアクション開催の評価が必要ではないかと思う。30/180クラブという参加率、参加クラブの固定化、連携のマンネリ化等の課題に対し、今後、改革できるような取り組みを5県の連携の中で進めていきたい。

(中国ブロッククラブネットワークアクション実行委員長 関口 昌和)

※本ネットワークアクションは、東京2020応援プログラム（スポーツ・健康）として実施しました